



発行:名張育成園MIRAIプロジェクト 社会福祉法人 名張育成会 T518-0615 三重県名張市美旗中村2326 TEL 0595-65-0271 FAX 0595-65-2936

発行責任者:市川知恵子(社会福祉法人名張育成会) 編集責任者:池上祥二(社会福祉法人名張育成会) 編集長:佐伯典昭(株式会社サンエイ) 編集デザイン主任:新井知子(株式会社サンエイ) 題字・イラスト:千秋育子

vol.2
2011.12.10発行

みんな元気に輝いて生きる

Information



イルミネーションイベント
12月10日(土) 16:00~18:30

名張育成園一帯
やかに彩られるビッグイベント! 模擬店や様々な催しを行いつつ多くの来場者で賑わいます!!



育成園はーとの絵本「アサムとマヒル」が、アニメーションカタログになりました! ホームページからご覧ください。



People

杉本一平さん(20)

名張市と伊賀市の境にある山間部に突然現れるビニールハウス。その中で、杉本一平さんは黙々と作業を続けています。今回は一富士フードサービス株式会社のスタッフとして働く杉本さんを紹介します。

2年前の春、地元の伊賀つばさ学園を卒業した杉本さん。重度の知的障がいを伴う自閉症でしたが、就労に向けて、育成園の就労移行支援事業所「レインボークラブ(※1)」を利用されました。

昨年、水耕栽培などを手掛ける株式会社夢農会へ3か月間のトライアル雇用を経て6月に社員として入社。11月からは、業務提携先の一富士フードサービスのスタッフとして働いています。

平日は自宅から職場まで、徒歩とバスで約1時間かけて通勤する杉本さん。午前8時すぎに自宅を出て、職場に

着くのは始業時間の午前9時30分前。

職場のビニールハウスでは、小さな野菜の種を付けたり、苗を定植するのが主な仕事。根気強さでは誰にも負けない杉本さんの個性が一番發揮できる作業だとか。

「一生懸命に作業してくれています。時間にも正確なので助かっています」と職場の方の評判も上々です。

「レインボークラブで仕事という観念が体得できた」と話されるお母様。学生時代から身だしなみなどは自分で気を付けて自力でやっていたといいますが、就労してからは特に「自分なりに健康管理しているよう」だとか。仕事という意識が向上したためなのか、バスと徒歩での通勤でも「体力が付いたのでは」と感心されています。

さて小学校低学年の時にピアノを



習っていた杉本さんは、今も月に1、2回「ぱれっと(※2)」で30分程度ピアノを習っており、育成園の支援者や同じ仲間の人たちとの映画鑑賞やカラオケ、ボウリングにも出掛けます。

また20歳を機に、今年の春ごろから週2回(水・金)ケアホームも利用し、夏ごろからは、定期的に伊勢市の皇學館大学へ電車で訪れ、同世代の学生と一緒にになってさまざまな活動に参加するなど、活発に活動しています。

そんな杉本さんの夢は、テレビコマーシャルによく出てくる大きな一本木を見に海外に出掛けること。いつか

実現するといいですね。

(※1) 杉本一平さんは、名張育成会レインボークラブの「就労移行支援事業」を活用され、就業されました。詳しくは、お気軽にお問い合わせください。TEL:0595-67-4188、mail:rainbowclub@n-ikuseien.jp

(※2)ぱれっと:相談支援施設、TEL:0595-67-0088

(ご本人やご家族のプライバシーは守りますのでご安心ください)



Eye

地元高校写真部によるフォトメッセージ。障害や福祉を高校生の目線で捉え、若者の視点で、広く現状をお伝えしようというもの。みなさんと共に創造し、良い企画に育てていきたいと思います。

第2回目は、県立名張西高校写真同好会の皆さんに、日常的な育成園の一部を撮影してもらいました。

また、今後掲載できなかった写真をブログに投稿していきますので、ご覧いただければうれしいです。



「微笑み」
(山中 彩)

この方はカメラを向けると、必ず笑顔を見せてくれました(*^*)
「笑顔」というものは素敵なものだと改めて感じました(*^*)v



「収穫の証」
(山口 大介)

入口の脇で見つけた、
可愛らしいカボチャです(*^~^*)
育成園の方々が一生懸命収穫したのかな、
などと考えつつシャッターを切って
いました(#'w'#)ゞ

Art

「欲をする」というこの書は、山崎智明さんが書かれたものである。

重度の知的障害者だが、アート分野では、器用な方で、書以外に水彩画も描かれる。見たとおりの気負いの無い優しい文字でまろやか。

自信に満ち溢れ過ぎた文字や自己主張の強い文字など色々あるが、それこそ、欲を捨てないと書けない文字そのものである。また、このコピーをチョイスすること自体が、ニクい！

また、田中保弘さんの書をみると「風」「大空」と、スペースをいっぱい使って、のびのびと力強く書き、強弱をあまりつけないのが特徴である。

さて彼らは、職員とのコミュニケーションによって書に取りかかる。書の練習は、直接言葉で伝えるのではなく、筆遣いの延ばすところは「ギューッ」。また、のびやかに書くところは「ビューー」。



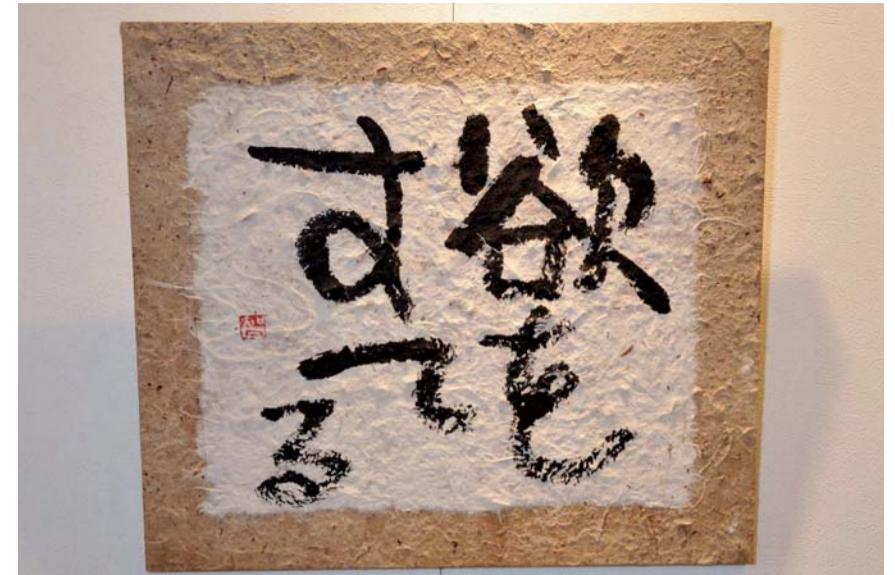
(書:田中保弘さん 名張市立病院で展示中)

留めは「トン」、点は「テンテン」など、擬音で会話しながら、お手本を示し、あとは、本人が四角い紙にバランスをとってイメージを落とし込むのだ。

さあ、「欲」を書く。あれれ、そんなに大きいく書いていいの？いや、これでいいんです！どうです、このバランスは！！

書というは、ご存知のとおり、下書きの線を積み重ねて書くものではなく、瞬間を活かすものなので、あれこれと思っても、勢いを捨てず、書ききる根性が必要である。

無心で一気に書ききれるといいのだが、迷いが生じたり、それこそ欲がでてしまつて、力が入ったり、計算をするとろくなことがなく、味気ない書になってしまふものだ。嗚呼、ゴルフと同じ、いや人生と同じかも。



(書:山崎智明さん CAFE&GALLERY ほっぷで展示中)

実は、山崎さんや田中さんの書は、人気があって、作品展に出展すると、お問い合わせがとても多い。

書も絵も音楽も、上手なひとは、世界中にたくさんいるが、灯台下暗いで、近くに天才は存在する。

とても個性的な二人の書を始めとして、様々な作品が、名張市立病院1F救急入り口通路に展示されていて、市民の方からも評判のよう。一度、ご覧戴ければと思います。

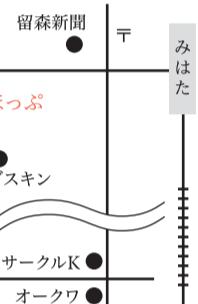
<千秋育子:イラストレーター、エッセイスト>

書や画は、ほっぷ・名張市立病院で展示しています。



ほっぷ
CAFE&GALLERY

OPEN 10:00
CLOSE 17:00
定休日 土・日・祝
ただし毎月、最終土曜は営業！！
TEL 0595-66-5513
名張市新田字出山1225-1



Vol. 1のArtで紹介した、菅尾博司さんデザインの年賀状ができました。
イラストは4種類。ピュアな色遣いがどこか愛くるしいですね。
詳しくはYOUブログをご覧ください。

お母さまにお聞きしました。

——ご子息がこの道に進んだ当初、どのように感じられましたか？

「嬉しかった半面、本当に福祉の世界で頑張つていけるのか、会社の方々や利用者の方々に迷惑をかけていないだろうか…と心配事は尽きませんでした。」

——今はどうですか？

「仕事をしている時はとても生き生きしていて、そんな様子を見ていて『私も福祉で働きたいなあ』って思っています(笑)」



Work

ジョブコーチ・川出将規さん (ジョブサポート・ハオ)

ジョブコーチとしてジョブサポート・ハオで活躍する川出将規さん。入社6年目を迎え、中堅として更に期待される川出さんにお聞きしました。

——福祉関係の仕事に就いたきっかけは？

「親戚に福祉関係の方がいたので、幼少時から障害児と接する機会が多く、自分の中では自然にこの道に進むものだと思っていました」

——仕事内容を教えてください。

「働きたいという方の相談を受け、一

緒に仕事を探したりするなど就労や生活の支援をしています。また、ジョブコーチとして就職された方のコーチングや会社の方にもアドバイスしています」

——6年の勤務で苦労されたこともあったと思いますが？

「苦労というか、入社2年目の時、ジョブコーチとして最初に就労支援をした方が離職された時はひどく落ち込みました。精神障害のある方でしたが、私が支援した最初のケースだったので、自分が支援した最初のケースだったので、自分を責める気持ちが強く、葛藤しました。なかなか気持ちを切り替えるこ

とが出来ず、自分を責める日々でしたが、そんな様子を心配してくれた周囲の人に助けてもらい、何とか乗り越えることができました」

——逆に感激したことは？

「感激とは少し違うかも知れませんが、衝撃を受けたことがあります。以前の自分は、偏見だったのかも知れませんが、障害者は守られるべきもので、働けるなんて思ってもみませんでした。それがこの仕事に就き、実際に働いている方々を目の当たりにして、障害があつても企業で働くんだと知り、衝撃に近い感動を覚えました」

——今後の夢や抱負は？

「少しでも上司に近づけるよう、就労支援のスペシャリストになりたいです。個人的には1歳半になる女の子がいるので、育児も積極的にしたいです」

☆ジョブサポート ハオ (伊賀園域障がい者就業・生活支援センター ジョブサポート ハオ)

HP: [ジョブサポートハオ](http://job-support-hao.com) 検索 TEL: 0596-65-7710

●障害者就業・生活支援センターとは？

平成20年4月1日から、県の推薦・指定を受け、国との直接契約により「障害者就業・生活支援センター事業」を受託しています。雇用・福祉・教育等の関係機関の人たちと協力しながら、障害のある方が働くことや生活していくために必要なお手伝いをします。

●ご利用にあたって

お気軽に……まずはお電話ください。安心して……ご本人や家族のプライバシーは守ります。心配しないで……相談などの費用の負担はありません。

●ご本人(ご家族)へのお手伝い

(1)障害のある方の就業や進路の相談にあります。(2)障害のある方に合う仕事を一緒に考えます。(3)長く働くためのお手伝いをします。

●その他、事業所の方へのお手伝いも行います。また、ご本人及び事業所への支援は、関係機関と連携を取りながら行います。対象者など詳しいことは、お気軽にお電話などでお問い合わせください。

